

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Prevalence of alcohol abuse and alcoholism in general population of Mostar region, Bosnia and Herzegovina Bosnia、Herzegovina の Mostar 地区一般住民でのアルコール乱用と依存症の有病率	
執筆者	
Skobić H, Sinanović O, Skobić Bovan N, Ivanković A, Pejanović Skobić N.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Coll Antropol. 2010 Mar;34 Suppl 1:29-31.	
キーワード	
アルコール中毒症、アルコール依存症、有病率、ボスニアヘルツェゴビナ	
要 旨	
目的： Bosnia、Herzegovina の Mostar 地区でのアルコール乱用と依存症の有病率を求めること。	
方法： 本研究では層別化した 704 人の参加者を対象とした。アルコール乱用の有病率は標準化された Michigan 飲酒スクリーニング検査の質問票を用いた。	
結果： アルコール乱用しアルコール依存症のリスクが高い住民の有病率は 9.9%で、アルコール中毒症の有病率は 2.1%であった。大学生の中ではアルコール中毒が 3.9%あり、11.1%がアルコール依存症になるリスクが高い状態であった。中高生の中ではアルコール中毒が 1.7%あり、14.4%がアルコール依存症になるリスクが高い状態であった。	
結論： Mostar 地区でのアルコール依存症とアルコール乱用の有病率が高く、とくに中高生および大学生において高かった。教育、早期診断、早期治療を動員した徹底的な予防策が必要である。	